

門信徒号

うどんげ

2026年7月

発行

京都教区

御同朋の社会をめざす運動
(実践運動)門信徒間法推進委員会
075-371-6981

教区寺院のとりくみ③

明覚寺のいちろく市

下東組 明覚寺 柱本 惇

毎月十六日。お昼をすぎた頃、明覚寺の山門に一台の車が停まります。車の中から出てきたのはたぐさんの野菜。薬物から根菜、豆類に至るまで旬の野菜が次々と台の上に陳列されます。それと同時に人が集い、野菜を手に取り「これ珍しいね」「どうやって食べるん？」と会話が弾む。小さいけれど、交流の場が生まれていく。これが明覚寺の十六日の風景です。

きっかけは本願寺門前町の「いちろく市」でした。親鸞聖人のご命日である毎月十六

日に本願寺伝道院の周辺に店が並び、賑わいをみせていた「いちろく市」。そこに明覚寺も出店し野菜を並べたところにはじまります。その野菜は全て京都府南丹市より直送。以前、南丹市の過疎地域応援プロジェクトのご縁をいただき、明覚寺と地元農家さんとの交流を続けてきました。野菜を通して地域のことを知り、現地に足を運んで生産者と交流する。ひとつの野菜がこれほどまでにご縁を結んでいくとは想像もしていませんでしたが、現地

目次

・教区寺院のとりくみ③	1頁
・明覚寺のいちろく市	2頁
・九條武子さまご事績	3頁
・同朋委員の想い	3頁
・シリーズ顕道会館②	4頁
・顕道会館こぼればなし①	4頁
・編集後記	4頁

で土に触れ、収穫させていただいたことは、大変学びが多く貴重な経験となりました。そういったご縁から、「いちろく市」で南丹市の野菜を陳列。「このにんじんは農家の〇〇さんの野菜で、ここにこだわって作られているんですよ」「こっちは△△さんのさつまいもで、とにかく甘いんです」など生産者の顔が見えることを大切にしてきました。

残念ながらコロナ禍以降、門前町の「いちろく市」は行われてませんが、その再開を願いつつ、毎月十六日に明覚寺の門前で細々と続けていきます。

そうすると、自然と人の輪が広がってきました。毎月お手伝いに来てくださる方もおられれば、ご近所の方も必ず

覗いてくださる。また、お菓子工房を営む方から出店のご希望があり、今は毎月野菜の横にシフォンケーキにカヌレなどのお菓子が並びます。最近では野菜よりお菓子目当てで来越しになる方も。

少しずつですが賑わいをみせてきた明覚寺の十六日の風景です。これからも少しずつお店を増やし、「明覚寺のいちろく市」として人々が集う場を作っていきたいと考えています。



明覚寺いちろく市

毎月十六日、十四時～十五時頃

明覚寺門前で開催



九條武子さま特集①

武子さまの「事績」

九條武子さまは、一八八七（明治二〇）年に本願寺第二十一代明如宗主の次女としてお生まれになり、一九〇九（明治四十二）年に九條良致氏とご結婚されました。

宗門においては、大谷簪子裏方（大谷光瑞夫人）を助け仏教婦人会を創設、一九一一（明治四十四）年に簪子裏方がご往生されると、本部長として現在の仏教婦人会の礎を築かれました。

また、仏教婦人会から「女子大学設立趣意書」を発表され、仏教を基盤とした女子大学設立にもご尽力され、これが現在の京都女子大学へとつながっています。

武子さまは、一九二三（大正十二）年の関東大震災に、築地別院（現・築地本願寺）で被災されました。その時の揺れや火災の恐ろしさをお手紙に克明に記されています。



九條 武子 さま
〔出典：国立国会図書館
「近代日本人の肖像」〕

「火の粉は私共の身边に流星の如く降って参ります」

「恐ろしい火の海をどう切り抜けて来たか、よく判りません」

〔出典：『震災叢書 第三編（震災惨話）』〕

このような状況下でも、負傷者や孤児の救援活動や震災復興事業にご尽力されました。また、救援活動のために私財を投じられ、これがのちの江東区あそか病院の設立へとつながっています。しかし、これらの活動の無理がたたり、一九二八（昭和三年）二月七日に四十二歳でご往生されました。

武子さまは、浄土真宗のみ教えを深く受け取られ、他者に寄り添う生き方を貫かれる一方、歌人としても

高く評価されています。

様々な活動をしてこられた武子さまの胸の内を静かに詠まれたのが、詩集『無憂華』に収められている次の和歌です。

「おほいなる もののちからに
ひかれゆく わがあしあとの
おぼつかなしや」

周囲からは頼もしく見えたであろう武子さまですが、ご自身は「おぼつかない」（たよらない）と正直に心情を吐露されています。

それでも歩み続けることができたのは、「おほいなるもの」（阿弥陀如来）のお力に導かれていると深く感じておられたからでしょう。

道が見えないとき、足元がおぼつかないとき、私たちもまた阿弥陀如来に導かれて歩んでいるのです――

武子さまは、時代を越えて静かに語りかけてくださっているように思われます。

（慶澤憲隆）

同朋委員の想い

四月の中旬、久しぶりに遠出をしようと思つて奈良県御所市にある「水平社博物館」に行きました。二階の展示室を見ていると差別の解消に向けて運動が続けられた人々の熱い思いが伝わってきました。大阪市に訪れた時の様子が浮かんできます。

見学を終えて、周りを見渡すと「水平社」創設の西光万吉の生家、「西光寺」職から「同和問題」や人権問題についての講話を本堂で聞いたことを改めて思い出します。話の中で印象に残っているのは、ご住職と一緒に活動をされていた人が、身内の人から障がい者と結婚したいと相談されたとき、当初はものすごく反対されたということです。一生懸命に活動されている

人もわが身の問題になったときに反対されたことを聞き、ここに「同和問題」や人権問題の解決への底深さを感じたことでした。

また、昨年の二月に近畿同朋運動推進協議会（近同推）の創立七〇周年記念大会が開法会館で行われました。大会のテーマは「伝えよう 同朋運動の願い」です。ただ、残念ながら現在の宗門の体制は「同朋運動」という言葉も消えて行っているように感じられます。宗派の公聴会で「同朋運動がなければ」牛肉の不適当な焼きた」と批判された方もおられました。

今、私たちがしなければならぬのは、「水平社」や「近同推」を立ち上げて活動をされた先達者に見習って活動することではないでしょうか。同朋運動の原点である「部落差別の解消」に向けて御同朋御同行の道を進んでいきましょう。

（御同朋委員会）

仏教公開講座（京都教区教務所主催）

仏さまのお話を通して、「あなたの人生」見つめてみませんか？

会 場：洛西境谷会館（京都市西京区大原野西境谷町2-14-16）

今後の開催：9月、10月、11月、12月の第1土曜日（予定）

開催時間：10：30～11：40

※事前申込不要、参加費無料

急な変更等もございますので、詳細は京都教区教務所ウェブページでご確認ください



仏教公開講座QR

本願寺の常例布教ライブ配信

本願寺の常例布教がYouTubeにてライブ配信されています

左記QRコードよりお聴聞いただけます



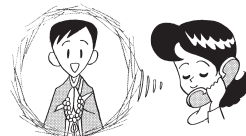
本願寺の常例布教

テレホン法話 こころの電話



さあ よい おはなし

075 341-0874



一度お聞きください こころにふれる電話を24時間いつでも送りつけます。あなたへの3分!! 電話通話料（約10円）

テレホン法話 2026年度 放送予定

月	8					9				10				11				12				2027	1			
日	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25
担当	下東組					城南組				桑船組				下西組				上西組					上東組			

シリーズ顕道会館 第二回

顕道会館こぼればなし①

昨年発刊した『慶讃法要・記念法要記録誌』編集のこぼれ話をさせていたかどうかと思います。

昨年、記録誌発刊の同時期に『ゆきてかへりぬ』という映画が公開されました。この映画は、詩人・中原中也（一九〇七―一九三七）と女優・長谷川泰子（一九〇四―一九九三）の関係を描いた作品なのですが、この映画を観ていて、顕道会館の使用履歴について思い出しました。

顕道会館は、創建当初から現在までさまざまな方に使用されてきましたが、その中に次のような使用記録があります。

〔大正十三年〕

三月（二十二）・（二十三）日

午後六時から 顕道会館

表現座研究劇

有島武郎作 死と其前後

（国立劇場編纂『近代歌舞伎年表京都篇』第八巻 一九二頁）
顕道会館を演劇の発表の場所として、表現座という団体が使用したという記録です。では、表現座とはどんな団体であったのかを調べると、

表現座は京都帝国大学助教授でドイツ文学専攻の成瀬無極が主宰し、「死刑執行人の死」で知られる異端作家の倉田啓明が中心人物だった素人の新劇団だった。ここで有島武郎の「死と其前後」を上演した。その表現座の稽古場が倉田の家にあり、その薄暗い稽古場の椅子に坐って中原中也が練習風景を見ていた。そこで話をしたのが、中也と泰子の最初の出会いだった。

（川西政明『新・日本文壇史第三巻 昭和文壇の形成』というものに行きました。）

つまり、表現座には長谷川泰子が所属していて、その稽古場で中原中也と出会い、交際することになったというのです。そう考えると劇の発表の場であった顕道会館にも、中原中也が来ていたと考えていいかもしれません。

残念ながら、映画の中では、このような出会いの場面は描かれていませんでした。もし描かれていたら、創建当時の姿を残す顕道会館も、撮影に使用されていたのではないでしょう。

これは、宗教関係だけではなく、その他のさまざまな団体に使用いただってきた、歴史の一端を感じる話です。

これから、皆さまとともに会館の歴史を重ねていきたいと思います。

〔編集後記〕

今春、京都府知事選挙が実施されました。選挙においては各陣営の選挙公約となる。

公報の配布が全戸に届けることが間に合わないという理由から、新聞の折り込みでの配布方法に公式変更されたの聞いておりました。実際には、過去の配布漏れトラブルやポスティング業者が見つからなかったというのが真相のようです。何とか期日内に配布が完了したかに見えましたが、若年層を中心とした新聞の未購読世帯も多く、希望する世帯への個別郵送や公共施設に設置、ホームページやSNSでの周知に追われたそうです。

その昔、手書きでしか伝えることが叶わなかったみ教えも、速如上人の時代には木版印刷の技術の急速な向上もあり、遠方の門信徒さまにも全く同じ正しいみ教えが印刷された本やお手紙を手にすることで、同時に伝えられて共有することが可能になりました。

ただ、今の時勢を見ますとインターネットの普及により伝え方も多様化が進んでおります。

今回、「うどんげ」や「Bメール」をPDFファイルにより発信することは、時勢を見ての試みとなります。パソコンやスマホでの閲覧、あるいは紙に印刷しての配布など、どのような形で全く同じ内容を共有できます。

編集委員会では、これからも最善の方法を考えて、すべての皆さまのもとに確実にお届けし、読んでいただきたいと願っております。

（藤井亮治）